

**本社が認識すべき海外拠点の運営リスク対応
～ コンプライアンス重視の経営でリスクヘッジ ～**

企業活動のグローバル化に伴い、中堅・中小企業においても海外諸国への進出が増加しています。その一方で、現地で事業不振に陥ったり、トラブルを抱える企業が増えています。海外での事業においては、リスク管理を現地任せにせず、本社主導で取り組む必要があります。本講座では、事例を交えて「失敗に陥らない」ための海外拠点運営リスク対策のポイントを学びます。

こんな方におすすめ！

- ・海外拠点を持つ企業の皆様
- ・海外拠点の運営にお困りの企業の皆様

研修の効果

- ・海外拠点の運営を妨害するリスクについて認識を深められます。
- ・海外拠点の運営リスクに対して日本本社からの防止策を学べます。

開催概要

タイトル：本社が認識すべき海外拠点の運営リスク対応

日時：2017年3月17日（金） 13:30～16:30 受付 13:00

会場：機械工具会館3階 第1会議室 東京都港区芝5-14-15

(<http://www.k-kaikan.co.jp/access.html>)

定員：40名

費用：法人会員企業 10,000円/1名 賛助会員企業：無料

非会員企業 20,000円/1名

主催：特定非営利活動法人セフティマネジメント協会

後援：株式会社キャプテン

講師紹介**佐藤 忠幸 氏**

佐藤中国経営研究所 代表

元来の専門は、業種と国を問わず、生産工場経営。品質管理、管理部門を経て、工場管理ならびに会社経営に参与してきた。各国でのリストラもこなしており、上り坂ばかりでなく下り坂における経験も豊富に有する。現在は、経営コンサルタントとして長年の経験と実戦で培われた知識に基づき幅広く相談と指導を実施している。各社顧問と併せて各種セミナー講師および雑誌や新聞への執筆を多数引き受けている。

講師の言葉

現代では、中堅・中小企業といえども多くの企業様が、海外に合併あるいは子会社などの関連会社を持たれています。特に製造業では海外に製造拠点および販売拠点のいくつかを持たなければ親会社の存続が危ういともいわれています。しかし、国内の関連会社と同様の管理をしたり、逆に、海外を意識し過ぎたりして失敗した事例を数多く拝見します。そのような事例を振り返りながら、海外関連会社の発展成長とともにその利益や波及効果を親会社へいかに反映させるか考えてみたいと思います。



本社が認識すべき海外拠点の運営リスク対応 ～ コンプライアンス重視の経営でリスクヘッジ ～

セミナープログラム

* プログラムは若干変更することがあります。

開会のご挨拶

NPO法人セフティマネジメント協会 理事長 出崎 克

1) 海外拠点の経営リスクと防止策

- ① その国と国民性無視の経営リスク
- ② 企業設立目的と経営計画・目標が曖昧なリスク
- ③ 真の経営責任者不在のリスク
- ④ いい加減な人事労務管理によるリスク
- ⑤ 年功序列型人事制度によるリスク
- ⑥ 曖昧な不正防止策によるリスク
- ⑦ ウソの会計によるリスク
- ⑧ 曖昧な財産保護によるリスク
- ⑨ 設立国の法律軽視によるリスク
- ⑩ 企業撤退におけるリスク

2) 事例研究

3) コンプライアンス重視経営の基本

4) よくある事例

- ① 合併事業をスタートしたが、利益は期待外れ
- ② 「トップの不正」が組織を腐敗させる

5) まとめ：海外拠点の運営リスク対応

参加申込書

2017年3月17日（金）

本社が認識すべき海外拠点の運営リスク対応

FAX : **03-5614-4477**

NPO法人セフティマネジメント協会
事務局（担当：安井） TEL : 03-5614-4752

お申込み日： 年 月 日

企業・団体名

ご住所 〒

TEL

FAX

1 お名前

役職・部署

email

2 お名前

役職・部署

email

当参加申込書にご記入のうえ、NPO法人セフティマネジメント協会へFAXにてお申込み下さい。